

〈はじめに〉

2023年9月下旬から約1か月にわたって、フランスのトゥールにあるフランス語の語学学校に通いました。通っていたのは Institut de Touraine という学校で、元々地方都市で勉強に集中したいと考えており、ネットでの評判も良かったことから、こちらの学校を選びました。

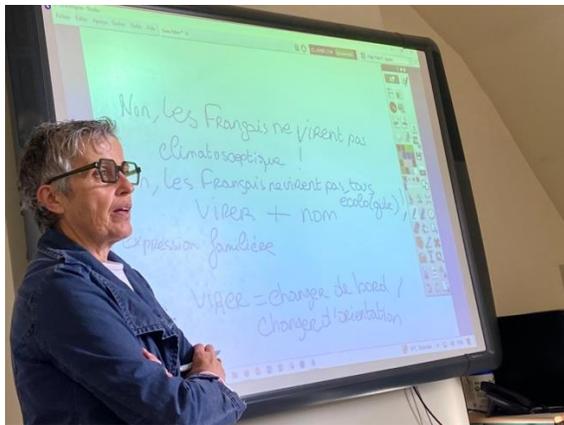


〈授業〉

授業は、月・水・金は午前中、火・木はそれに加えて夕方までありました。入ったクラスは AVANCÉ という、学内で上から2番目のクラスで、フランス語の資格試験 DELF B2 (6段階のうち上から3番目)の合格を目指す生徒が多くいました。

授業の内容は日によって異なり、フランス語のメディアから選んだニュースの発表、プレゼンテーション、初見の雑誌記事、ビデオ、ラジオの内容を理解できたかの確認、決められたお題についてのグループディスカッション、文法の教材を用いた解説などがメインでした。基本的に、DELFB2での出題を想定したものになっており、自分にとって適切なレベルでした。この他、学校周辺散策、工作、遠足等、適度に文化的な活動もありました。

クラスの人数は20人弱で、生徒や先生との距離も比較的近く、受け身になることなく授業に参加することができました。先生がとても熱心かつ気さくな方で、最後までモチベーションを高く保つことができました。



〈日常生活〉

クラスの仲間でラグビー観戦をしたり、誕生日をお祝いしてもらったり、新しい交友の輪が広がって楽しかったです。

宿泊先は学校と提携している寮で、クラスの友人に教えてもらったマルシェで新鮮な野菜やお肉を買って、部屋で自炊するのが好きでした。今回初めて知った、メグレーズというソーセージがお気に入りです。

パンもとても美味しく、スーパーで売っているバゲットでもレベルが高いです。学校近くのパン屋（ブーランジュリ）で売っているパニーニとエクレア・オレ、あとトゥール駅近くのブリオッシュ屋さんのブリオッシュ・ショコラが思い出深いです。





〈トゥール〉

トゥールは、フランスのやや南西よりの内陸部にある都市です。コンパクトな規模で、歴史ある建物が多く残り、北部にはロワール川が流れる自然豊かな美しい街です。トゥールから高速鉄道で30分程度のところにあるシュノンソー城は、まさにフランスのお城といった感じで、良く手入れされた庭園と相まって夢のような場所でした。



〈パリ〉

パリには2回行きました。1回目は、パリで活動されている雨宮奈穂子弁護士と、現在パリ弁護士会の研修に参加している李明媛弁護士と食事をして、フランスでの働き方など大変興味深いお話を聞かせていただきました。

2回目は、後でお話しするマルセイユの帰りに立ち寄り、モンパルナス駅の近くでガレット、クレープ、シードルをいただきました。駅周辺にはブルターニュ地方名物のガレットやクレープのお店が多くあるのですが、それはモンパルナス駅がブルターニュ地方に行く鉄道の出発駅となっているからなのだそうです。



〈リール〉

2023年8月にインターン生として事務所に来てくれた Pauline さんに会いに、また、彼女が通うリール・カトリック大学へ表敬訪問をするため、リールに行きました。リールはフランス北部の都市で、トゥールから高速鉄道に乗って3~4時間（パリから1時間ちょっと）で行くことができます。歴史ある美しい建物やカラフルな建物が多く立ち並ぶ可愛らしい街でした。今では多くの大学がある学生街となっているそうです。元々は、大学のキャリアセンターの方にご挨拶をするだけの予定だったのですが、学校からの提案で、マスター1年と2年（日本の大学に例えると、法学部4年生と5年生といったイメージですが、ロースクールのように、卒業後は弁護士資格試験を受ける人が多いようです。）の学生に対して、事務所や私の仕事内容についての講演を行うことになりました。リールに訪問する数日前に決まったので驚きましたが、簡潔に内容をまとめて話すことができました。講演自体はフランス語でできましたが、学生からの質問に対しては、Pauline さんの助けを借りて何とかお答えすることができました。約2、30人の学生が聴講しに来てくださり、それぞれ熱心に話を聞いていただき、また、講演後にもわざわざ私のところに来て質問してくれるなど、興味関心を持っていただけたことが伝わってきてとても嬉しかったです。このようなご縁が続けばいいなと思います。



〈マルセイユ〉

ラグビーワールドカップ観戦のためマルセイユに行きました。4年前に日本で開催された時に、フランス大会に行けたらと思っていたので、それが実現されて感無量です。試合はアルゼンチン対ウェールズ戦で、アルゼンチンの逆転劇に会場は大いに盛り上がりました。

マルセイユは典型的な南仏都市で、夏に多くのバカンス客が訪れている様子が鮮明に想像できました。今回はラグビー観戦に訪れている方で賑わっていました。船やボートがずらりと並ぶ港周辺はとても絵になります。

その港から船で20分ほどのフリウル島にも行きました。この島には、カランクと呼ばれる南仏特有の入江があり、透き通ったエメラルドグリーンの海が美しく輝いていました。朝に訪れたため人が少なく、清々しい気持ちになりました。



〈ナント〉

授業の一環で、トゥールがあるロワール地方の最大都市ナントにクラスで遠足に行きました。プロテスタント教徒に対してカトリック教徒とほぼ同じ権利を与え、近世ヨーロッパで初めて個人の信仰の自由を認めたといわれる、ナントの勅令が出された場所です。

まず訪れたのは、ブルターニュ公爵城。ナントの中心部にあるこのお城は、中を見学することができ、歴史的な展示物から現代アートの展示まで幅広い内容となっています。ロワール川沿いのお城の中で最も河口に近いのだとか。かつて城はお堀で囲まれており、現在もその名残りを見ることができます。

次に訪れたのは、奴隷制度廃止の記念インスタレーション。ナントは18世紀フランス最大の奴隷貿易港であり、このような歴史的背景を踏まえて作られたものです。そこには、世界人権宣言の一節や、マーティン・ルーサー・キングの有名な言葉などが記された壁や、世界の奴隷制度廃止の年表が設置されていました。

最後に訪れたのは、「レ・マシーン・ド・リル」。元々造船所だった場所が改装され、機械仕掛けの動物を作る工房と、それらを観覧する遊園地になっています。なかなかシュールでアーティスティック。ナント出身で海底2万マイルの作者である小説家、ジュール

ヌ・ヴェルヌの世界観が反映されていると後に知り納得しました。人を乗せて街を歩く巨大な象はナントの観光名物になっています。

ナントは、宗教、奴隷、産業等、人間の営みについて考えさせられる場所でした。



〈最後に〉

総じて楽しい留学生活でしたが、もちろん、苦勞したことも多々あります。

例えば、学校との間で予約できていることを確認済みだった寮に着いたら、予約できていないと言われました。1週間は部屋を確保してもらいましたが、1週間後の月曜日の朝に、今日から1週間は泊まれないと言われ、すぐに全ての荷物をまとめて出ていかなければなりませんでした。学校で担当者に相談して、宿泊先のホームステイが決まったのは、その日の授業が終わってしばらくしてからでした（ホストファミリーにはとても温かく受け入れていただき、むしろ地元の生活を体験できて良かったと思っています。お父様のご友人と一緒にラグビーワールドカップのフランス戦をテレビ観戦したことが思い出です。覚えた言葉は「Coup de grâce」（トドメの一撃))。

他にも、設備の不具合が普通だったり、本当にタバコや犬のフンが道路に平然と落ちていたり、カルチャーの違いを色々と感じました。

もっとも、このような経験はネガティブなものではなく、留学前に比べて、目の前の出来事に対する柔軟性、落ち着き、度胸などが育まれたと実感しています。

フランス語については、次のステップが鮮明になりましたし、何より実際にフランス語で生活している人達の中で暮らすことで、フランス語を「使う」自分を具体的にイメージすることができるようになりました。まだまだ聞き取れない会話や知らない単語があり、上達したいという気持ちが一層強くなり、今後もさらに勉強を続けていきたいと思っています。

そして、1か月という短い期間ではあったものの、それぞれに夢を持ったクラスのメンバーに出会えたことはかけがえのない宝物です。

このような機会をくださった皆様に心から感謝申し上げます。

